

幸町地区全体の整備コンセプトに関する意見 (幸町地区総合整備検討有識者会議第2回会議での意見要約)

◇会議全体を通じた総括

- 幸町地区をどのようにしたいのかというところに関しては、委員の方向性として大きなズレはないものと思われる。
- 整備コンセプトについては、空間的につなぐ、過去と今の人をつなぐ、未来と今の人をつなぐ、人と人をつなぐ、文化と人をつなぐといった視点での大きな方向性に関しては、委員の中である程度同じ方向性なのではないか。

◇呉市立美術館あり方検討委員会の開催報告

- 開館から40年を過ぎ、改築・新築等を早急に実施しなければいけない状態
- 公立美術館の役割がかなり変化してきているという現状がある。
- 社会の中で文化施設としての役割ということが重視され、学校教育だけでなく、一般的に美術をどのように楽しんでもらうかというのがとても強くなってきている。

◇幸町地区全体の整備コンセプトの検討

▶各委員からの意見・提案（共通事項）

- 「つなぐ」、「つながる」、「市民」、「歴史」、「伝える」という視点
 - ・空間的にいろんな場所を「つなぐ」役割を果たす、スタート地点になる場所
 - ・「市民」が「つながる」場所、活躍したり、稼いだり、「市民」の方が使う場所
 - ・過去の「歴史」と、今の生活を「つなぐ」という側面
 - ・未来と今の人を「つなぐ」、時間的な意味での「つなぐ」視点
 - ・文化と人、文化・芸術と人を「つなぐ」視点
 - ・呉の「歴史」、地域の「歴史」を伝える場所、「歴史」が重層的に重なった場所
 - ・「市民」が誇りを持てる場所
 - ・体験を通して、呉の文化を「伝える」場所
- 浅く広く、狭く深くといった視点で上手く配置し、両方を提供できるような場所
- ポテンシャルを持った場所ということをもう一回甦らせる

◇その他の主な意見

- 市民広場へのスポーツ施設の再配置との関連性に関する意見